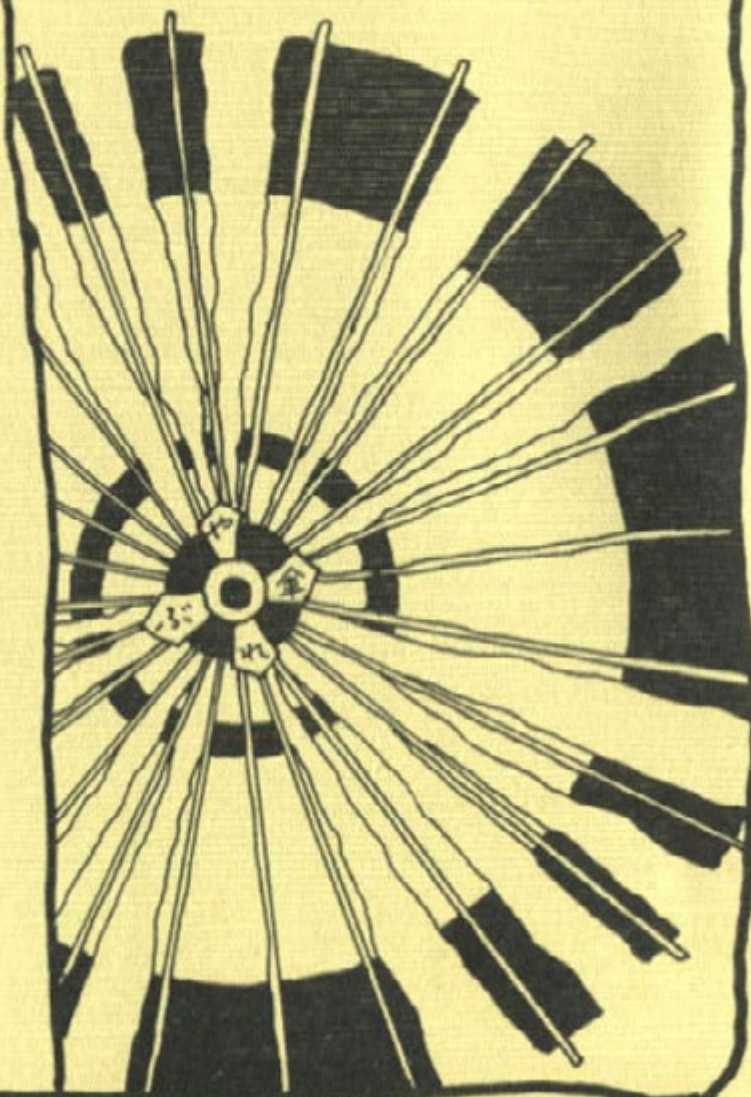


やぶれ傘



八十九号

二〇一六年四月

魚は氷に人は脚立に上りけり	根橋宏次
人影の鯉に喰はるる寒の明け	きぐちきみえ
落ち椿隅に積まれて錆びにけり	大島英昭
入り口の小さきうどん屋鳥曇り	丑久保 勲
五羽六羽雀来てゐる初桜	廣瀬雅男
紫木蓮まだ見え宵の星ひとつ	藤井美晴
土手青み川の流れの空晴るる	渡邊孝彦
川沿ひはうすみどり色春の雨	白石正躬
麦踏んできたる地下足袋洗ひけり	瀬島洒望
一望に東京駅を萑苜サラダ	安藤久美子
鳥歸る都電一日乗車券	菊池洋子
春昼の砂場の縁に泥団子	青谷小枝
軽き音春田の中の耕耘機	久世孝雄
春大根さげて和尚の戻りくる	秋山信行
一番星見つけて春の立ちにけり	小山ようこ

抄 集 句 選 夫 紀 崎 大 傘 ぶ や

黄水仙岬の先に海ひかり	有賀昌子
春一番ビニール傘を追ひまはす	松村光典
土手よりの二軍観戦よもぎ摘む	萩原久代
下萌えや盛塩したる地鎮祭	本郷美代子
探梅は旧家巡りとなりにけり	村田 武
古書店にぶらり立寄る春の屋	山本久枝
露の薑苦味ほんのり舌の上	安斉正蔵
冴返る地下深きより上り来て	岩藤礼子
ふんはりと和紙にくるんで雛納め	奥田温子
新聞とりモコンのある春炬燵	上林富子
一輪の椿を活けて客間とし	國保八江
村長の屋敷畑に露の薑	黒澤次郎
ぽつかりと浮かぶ雲あり花辛夷	齋藤 朋子
七階の終の栖や月おぼろ	鈴木昌子
千代紙の小箱に干菓子春隣	貫井照子

亀が鳴く

大崎紀夫

土手越えてくる遠足の子供たち  
初春のダンス教習所は二階  
メモリアルホールは休み春あらし  
魚屋を出て日向へと春の蠅  
蝶が見ゆ昼の休みの石切場

春の夜の川べりラムネ菓子口に  
亀が鳴くツタンカーメン王の墓  
花なづな踏切わたりすぐに駅  
淡海なり又手網漁の人かすみ  
這ふ蜂は関守石の麻紐に  
街灯の灯ははくれんのほぼ真上  
晴れ間見えゐて三極の花に雨

鳥雲に

根橋宏次

円卓の老酒まはす朧の夜  
魚は氷に人は脚立に上りけり  
文具屋に雪解しづくの音ばかり  
みづうみのはづれに艇庫麦青む  
縁側に日の当りぬる雛まつり  
鳥雲に纜いつも音たてて  
鮎竹の向う霞んであたりけり  
葺替は軒下に舟吊りしまま  
水たまりいくつも出来て彼岸入  
縁の下の片付いてゐる日永かな

子猫

きくちきみえ

人影の鯉に喰はるる寒の明け  
夏蜜柑たうたう落ちてをりにけり  
臨月の腹にぶつかる春の風  
繁縷に近づいてゆく削岩機  
恋猫の走り抜けたるトタン屋根  
開かぬものひとつありけり蜆汁  
朝の日の当たる餅草摘みにけり  
だれにでも懐く子猫でありさうな  
学校はむかし病院亀鳴けり  
トンネルに入る直前の桜かな

桜の芽

大島英昭

犬ふぐりなどを写して小半時  
辛子菜の咲いて小流れさき濁り  
曇りより薄日と変はり桜の芽  
花なづな川を越ゆればとなりの市  
囀りを橋の途中に聞きにけり  
塗りたての鳥居がひかる櫓の芽  
落ち椿隅に積まれて錆びにけり  
対岸にばうと連翹鮒を釣る  
守衛所に日差やはやは松の芯  
冴えかへる午後は小雨とかはりけり

鳥曇り

丑久保勲

とげ抜きで指のとげ抜く日向ぼこ  
出来たかと焼藪に箸刺しにけり  
しだれ梅ベンチでゲラの校正を  
土手へ出る斜めの道にいぬふぐり  
下萌えや飛行機雲が伸びてゆく  
本棚の地図帳を抜く春の夜  
紅梅を見上ぐれば鴟尾ひかりけり  
高橋で帽子押さへる春の風  
入り口の小さきうどん屋鳥曇り  
母の里は駅より一里うららけし



初 桜

廣瀬雅男

竹林の径を辿りて梅見茶屋  
鶯や伊豆の家並は川沿ひに  
富士塚に登山口あり草萌ゆる  
用水の堰に番の残り鴨  
日向より日影へ椿落ちにけり  
袖垣の根方たんぽぽ二つ三つ  
捨て置きの鉢にぺん草の花  
五羽六羽雀来てゐる初桜  
ふはふはの春の雲より鳶のこゑ  
菜の花の先に武州の雑木林

紫木蓮

藤井美晴

海遠く見え紅梅と白梅と  
街灯のあかりの中の黄水仙  
春の雷やがて木の葉を叩く雨  
耕しの手を止め山羊に物を云ふ  
黄色とも白きとも三椶の花  
とさみづき咲いて大木戸門に雨  
昼ひなかどの枝よりか囀れる  
諸葛菜踏切がコンコンと鳴り  
真昼間の月が真上に桃の花  
紫木蓮まだ見え宵の星ひとつ

ふらここ

渡邊孝彦

脇道の奥へ日が差す露の花  
耕され草屑混ざる田に日差し  
店頭の馬穴に梅の切花が  
マネキンのよそほひ変はり春一番  
土手青み川の流れの空晴るる  
夜のおぼろ木立は四よっ辻じあたりまで  
胡瓜蒔き足跡だけの畑となる  
ふらここで日向と日陰行き来して  
やぶつばき団地の空のあをあをと  
囀りは校舎の裏の木立より

春の雨

白石正躬

落ち葉してすかすかの樹の高さかな  
川風や餓鬼大将の凧揚がる  
それぞれの皺の手をのべ春焚火  
春鮎の水をにごして逃げにけり  
朝霞川辺にダンプつぎつぎと  
家つつむ音してきたり春の雨  
春疾風川辺に揺るる舫ひ船  
水門の淀みにひかる柳鮠  
寺の鐘木の芽のなかをわたりけり  
川沿ひはうすみどり色春の雨

## ◇ 5月・6月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
5月	3日(火)	AM9:00	こなから会	あいバル	國保八江
	3日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	瀬島 孟
	4日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	6日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	6日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	21日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	22日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	28日(土)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
6月	3日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	3日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	6日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	7日(火)	AM9:00	こなから会	あいバル	國保八江
	7日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	瀬島 孟
	18日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	19日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	谷中墓地・銀座	丑久保 勲
	25日(土)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
	26日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

(注) ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

浦和コミセンの数字は集会室。

6月19日(日)の吟行。集合は10時。集合場所はJR山手線・日暮里駅改札口。吟行地は谷中墓地・谷中銀座・夕焼け段々。句会場は滝乃川会館303集会室。

◎連絡先

瀬島 孟 ☎ 048-862-2757	藤井美晴 ☎ 0422-55-2733
大島英昭 ☎ 048-592-5041	WEP編集室 ☎ 03-5368-1870
廣瀬雅男 ☎ 048-443-7522	浦和コミセン ☎ 048-887-6565
丑久保 勲 ☎ 048-853-3856	WEP俳句教室 WEP編集室へ